

・連絡票

連絡票には、下記の から までの事項を一括して一葉に記す。

連絡先氏名・住所：〒000-0000 八千代市保品1 - 2 - 3

成徳大学教育学部 鈴木太郎

電話番号 : 0 0 0 0 - 0 0 - 0 0 0 0

ファックス番号 : 0 0 0 0 - 0 0 - 0 0 0 0

e-mail アドレス : suzuki@seitoku-u.ac.jp

原稿の枚数 : 本文 枚 (刷り上がり頁数換算で . 頁)

図 枚 (刷り上がり頁数換算で . 頁)

表 枚 (刷り上がり頁数換算で . 頁)

写真 枚 (刷り上がり頁数換算で . 頁)

和文要約 枚

英文要約 枚

同日本語訳 枚

採択された場合のフロッピーディスク提出の可否 : 可 (ワープロソフト名)

・表紙

表紙には、下記の から までの事項を一括して一葉に記載する。

論文の種類別 : 原著論文、資料、展望、研究時評、実践研究の種類を明記する。

表題 : 論文内容に即したものとし、一連の研究の場合は類似した表題は避ける。

例 : 「
における
におよぼす × × × × の効果」

著者名 : 著者が複数の場合は[・]で区切る。

例 : 鈴木太郎・田村花子

所属機関名 : 大学の場合は、学部名等も記す。

例 : 成徳大学教育学部

(以下は原著論文、資料、展望のみ)

表題の英訳 :

例 : Effects of × × × × on in

著者名のローマ字表記 : 原則としてヘボン式を用いる。

例 : Taro SUZUKI and Hanako TAMURA

所属機関名の英訳 :

例 : Faculty of Education, University of Seitoku

所属機関所在地のローマ字表記 : 市名、郵便番号 (7 桁) のみとする

例 : Yachiyo-shi, 000-0000

・和文要約とキー・ワード

原著論文、資料、展望、実践研究には、400 字以内 (25 字 × 16 行) の和文要約と 3 ~ 5 項目の和文キー・ワードをつける。それぞれのキー・ワードの間はスペースで区切る。

. 本文

1. 論文構成に用いる記号

論文構成に用いる記号はローマ数字(全角) 算用数字(全角) 両括弧付算用数字(全角)の3段階程度とし、細かくなり過ぎないようにする。また、見出しのあとにはピリオドをつけない。

- (1) 大見出し：ローマ数字を用い、上に1行をあける。
- (2) 中見出し：算用数字を用い、上に行をあけない。左端から1字あけて書く。本文は改行して始める。
- (3) 小見出し：(1)のように算用数字に両括弧を付け(ともに全角サイズ) 上に行をあけない。左端から2字あけて書き、コロン(:)で区切って本文を書き始める。
- (4) これ以下の小見出しについては左端から2字あけることとし、記号は著者の用いたものをそのまま用いる。

2. 表記について

- (1) 記号：以下の記号を用いることができる。

記号	使用例
中点(・)	並列する同種の語を列挙する場合。
ハイフン(-)	外国語の対語・対句の連結の場合。
引用符(“ ”または「」)	引用文に用いる。
括弧	()または[]を用いる。
コロン(:)	例、説明などを導く場合などに用いる。
セミコロン(;))	引用文献を列挙する場合、あるいは検定結果を列挙する場合に用いる。
省略符(…)	引用文の一部あるいは前後を省略する場合に用いる。

- (2) カタカナ：本文中の外国語の使用はできるだけ避け、原則として日本語化した外国語を記述する時にのみ用いる。
- (3) 数字：原則として算用数字を用いる。
- (4) 略語：一般に用いられているものに限る。ただし、必要な場合には、初出の時にその旨を明記する。
- (5) 検定結果の表記：各種統計的検定の結果を示すときには、以下のように検定統計量、自由度ならびに有意水準等を明記する。

($F(1/50) = 7.05, p < .05$) ($t^2(5) = 1.54, p < .05$) など

F, t, p などは斜体(イタリック)とすること

. 文献

1. 引用文献：本文において引用されたすべての文献を、著者名のアルファベット順に論文の後に「引用文献」として一括して記載する。同一著者の複数の文献は発行年順とする。同一著者による同一年の文献が含まれる場合は、発行年の後に小文字のアルフ

アベットを付けて区別する。

2. 参考文献：本文中に引用はしていないが論文内容と密接に関連し、特に紹介すべきであると考えられる文献については、「参考文献」として、「引用文献」の後に同様に一括して記載する。著書については、頁数の記入はなくてもよい。

3. 引用文献および参考文献の書式

(1) 雑誌：著者名(西暦年) 題目・雑誌名, 巻数(必要な場合は号数), 開始頁 - 終了頁.

(2) 著書：著者名(西暦年) 書名・出版社, 出版地, 開始頁 - 終了頁(必要な場合).

(3) 分担執筆：著者名(西暦年) 章題・編者名(編), 書名・出版社, 出版地, 開始頁 - 終了頁.

(4) 訳書：原著者名(西暦年) 原書名・出版社, 出版地, 訳者名(西暦年) 書名・出版社, 開始頁 - 終了頁(必要な場合).

欧文の書名(原書名)および雑誌名は斜体(イタリック)とする。

和文著書の場合、出版地は省略する。

例：

鈴木太郎・田村花子(2002)社会福祉施設職員の研究(第1報). 福祉研究, 3(1), 63-71.	(1) 雑誌(和)
Cooper, S. A., Bucy, A., & John, R. (2001) Early onset of autism. <i>International Journal of ***** Education</i> , 56, 692-700.	(1) 雑誌(欧): 著者3名以上では &の前に(,)を必ず入れる。雑誌名は斜体。
田村花子(2002a) 障害の医学. と科学社, 12-15.	(2) 著書(和):
田村花子(2002b) 障害の医学. と科学社, 120-128.	同一著者・年はa,b で区別。
Wilder, L. (1991) <i>Neuroanatomy of autism</i> . The ***** Press, London.	(2) 著書(欧): 書名は斜体。
田村花子(1975) 障害幼児. 鈴木太郎(編), 障害の心理学. 文化科学社, 11-49.	(3) 分担執筆(和)
Miller, S. R., Miller, C. S., Dolan, J., & Anderson, J.A. (1999) Down syndrome: Cognition, behavior, and genetics. In A. M. Korenberg & D. Atkinson (Eds.), <i>Handbook of ***** disorders</i> . ***** Press, New York, 61-115.	(3) 分担執筆(欧): 編者1名:(Ed.) 編者複数:(Eds.) 編者3名以上は& の前に(,)を挿入。 書名は斜体。
Knight, L. & James, W. (1999) <i>Educating and understanding ***** syndrome</i> . Wing Press Inc., California. 田村花子・鈴木太郎監訳(2002) 症候群への発達支援. 成徳学術出版社, 32-45.	(4) 訳書 原書名は斜体。

4. 本文中の引用の仕方

著者名の省略は避け、全員の名前を明記する。ただし、著者が3名以上である場合は初出時のみ全員の名前を明記し、その後は「(筆頭著者名)ら」(欧文の場合は「(筆頭著者名) et al.」)と記す。著者が複数の場合、著者名の連記は以下の例に従うこととする。

(1) 文中の場合

例： 鈴木・田村(1981)および佐藤(1980)は…
佐藤・鈴木・小川・池田(1963)は…。…佐藤ら(1963)…。
Sturges and Martin(1974)は…。(&記号は用いない。著者が2名の場合、andの前に(,)を入れない。
Wallach, Newman, and Rosenzweig(1974)は…。…Wallach et al.(1974)によると…。(著者が3名以上の場合、andの前に(,)を入れる)

(2) 文末などの()内の場合

例： …と指摘されている(鈴木・田村, 1981; 佐藤, 1980)。
…と指摘されている(Wallach, Newman, & Rosenzweig, 1974; …)。
&の記号を用いる。
引用文献が複数の場合はセミコロン(;)で連ねる。
カッコ内の引用順は、論文末にあげる引用文献の順に準ずる。

(3) その他文献研究等ではつぎの表記とする。

例： …と指摘されているが(Martens [1965] 56) これを否定する見解もある(Farrell [1970] 121)。

. 図表及び写真

1. 図表の表記：引用順に Fig. 1, Table 1 のようにする。
2. 図表および写真の数：必要最小限のもののみ、合計5点前後とする。
3. 図表・写真の用紙：原則としてA4判の白紙を使用し、用紙1枚につき図表・写真等各1点とする。
4. 図表・写真の大きさ
 - (1) 原稿刷り上がり時にスペースも含め、本誌1ページの半幅(70mm: 片段)または全幅(150mm: 段抜き)に収まる大きさとする。
 - (2) 図表は、原則として刷り上がり時の2倍の大きさで作成する。
 - (3) 図表は本文に比べ大きな紙面を要するので、その割合で文字数に換算し、所定の枚数を超えないように注意する。
5. 図及び表中の註：いずれも図表の下部に、右につめて記す。図、表、写真などの題説明文、図表中の文字は英文に統一してもよい(資料1・資料2参照)。
6. 表作成上の注意：原則として、縦線は用いず、また横線はなるべく少なくする。
7. 本文の右横の空白に図表及び写真の挿入箇所を指定する。
8. 写真などの製版に要する費用は投稿者の自己負担とする。

. 註釈

必要がある場合は、本文中にその箇所を明示したうえで、^{1) 2)}----のように上付きで通し番号をつけて註を付す。また、本文と文献欄の間に、すべての註を1) 2)----のように番

号順に記載する。

例：本文 Martens の現状擁護の主張(Martens [1965] 56) に対して、Farrellはそれとは異なる立場¹⁾をとる(Farrell [1970]121)。

註欄 1) Martens の理解に対立する Farrell の見解は、----という主張にみられるように(Farrell [1970] 129)、特殊教育のみならず、社会的環境の変化に基づいているのは明らかである。

2) ---

3) ---

X．英文要約

原著論文、資料、展望には英文表題、200～300語以内の英文要約、3～5項目の英語のKey Wordsをつける。その際、下記の諸点に留意すること。

- (1) 熟達した人の英文であるか、その校閲を経ていること。
- (2) 白紙のA4判用紙にダブルスペースで印字すること。
- (3) 和文要約とは別に、英文要約の邦訳を必ずつけること。

XI．投稿承諾書

論文を投稿する場合には、本手引きの最終頁にある投稿承諾書を1部提出すること。

資料1 表の書式

題は表の上部

Table 1

太く

群	Word Perception		Word Memory	
	平均	SD	平均	SD
A	37.9	6.7	23.1	5.2
B	39.3	6.8	25.0	4.2
C	40.4	6.6	25.0	4.6

太く

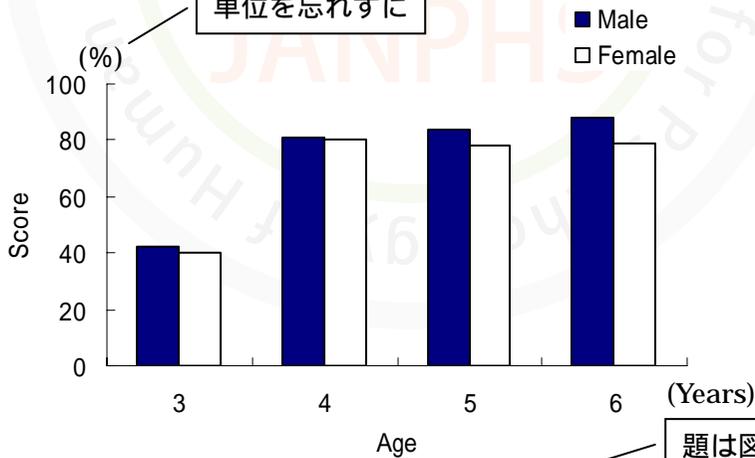
表の説明 * 右につめて記す.

- ・縦線は用いない.
- ・横線は最小限で.
- ・要点をコンパクトに記し, 大きすぎる表は作らない.

表および表注では文の句読点としてカンマ(,)とピリオド(.)のみ用いる

資料2 図の書式

単位を忘れずに



題は図の下部

Fig. 1

図の説明 * 右につめて記す.

図注では文の句読点としてカンマ(,)とピリオド(.)のみ用いる

投稿承諾書

下記の論文を「福祉心理学研究」に投稿いたします。なお、本論文は他誌に掲載済みのもの、あるいは掲載予定のものではありません。また、貴誌に掲載後、本論文の著作権は、日本福祉心理学会に帰属することを承諾いたします。

筆頭著者：氏名 _____ 印
 会員番号 _____
 所属 _____

論文題名： _____

共著者：氏名 _____ 印
 会員番号 _____
 所属 _____

年 月 日 提出